

東奥日報

2020年(令和2年)1月11日土曜日(7)

八戸工業大学11代目学長に就任



坂本 禎智さん
さかもと ちのり

「時代と地域の要請に応え、専門分野をリードする」「知の拠点として地域に愛され頼られる大学に」。会見で、目指す大学のビジョンをまとめたレジュメを配布し、教育方針や研究、社会貢献まで20分間熱っぽく抱負を語った。同席した現学長の長谷川明氏は「見ての通り非常に教育熱心。常に改革の気持ちで努力している」と評した。

同大工学部で23年、感性デザイン学部で11年教べんをとり、文理横断教育の推進を掲げる。「デザインは工学に付加価値を

与える舞台。両方の知識、経験を持つていることでもっと素晴らしいデザイン、製品ができる」と力説。「米国の大学では融合した教育を取り入れている。10年以上前から工学とデザインの両方を持っているのが本学の強み」とアピールする。

毎朝午前4時に起床。同6時45分には一番乗りで登校し、学内を30〜40

分間散策するのが日課。「自然が大好き。木、鳥、川、草を見ながら歩いていると幸せな気分になる」という。

絵を描くのも趣味で、ストックホルムの街並みを描いた細密な鉛筆画が自信作。ただ、多忙な学務部長を兼任した4年前から1枚も描いていない。「全神経を投入し、頭の中で目いっぱい描いて、自分の手に伝わるものを大事にしている。別な要因があると筆の圧力が変わってくるので」と実直に説明。当分、絵を描く時間はなさそうだ。

八戸市出身。2人の娘は独立し、同市の自宅に妻と2人暮らし。62歳。

この人

【本記22面】
(阿部泰起)

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」